

# 物は宜しき所あり、材は施す所あり

連載

私が大切にしている言葉

## 第93回

株式会社 旭プレシジョン

代表取締役社長 山中 泰満 氏



私が大切にしている言葉は、韓非子の「物は宜しき所あり、材は施す所あり」です。韓非子は現実を重んじた思想家ですが、この言葉には「すべてのものには最も適した場所があり、人や技術にはそれぞれ生かされる場がある」という普遍の真理が込められています。

私はこの教えを、経営や技術のあり方を考える上での指針としています。当社の事業は、機能性表面処理の受託加工です。製品ごとに求められる性能や条件は異なり、同じ技術でも最適な処理条件は一つとして同じではありません。

素材や用途に応じて「最もふさわしい方法」を見極め、技術を的確に施すことが品質を支える根幹です。

この姿勢は、人材育成にも通じます。社員一人ひとりの得意分野や感性を理解し、その力が最も発揮される場を整えることで、技術力も組織力も高まっていくと感じています。また、適材適所の精神はお客様との関係づくりにも表れます。お客様が抱える課題を正確に理解し、最適な技術提案を行うことで、信頼と満足を積み重ねてきました。変化の激しい時代においても、「適材適所」「最適加工」の理念を忘れず、技術と人の可能性を最大限に活かす企業でありたい。

この言葉は、私にとって経営の原点であり、社会に貢献するための普遍の信念です。

### 会社概要



株式会社 旭プレシジョン



- ◆本社所在地 京都府向日市鶏冠井町十相 30-5
- ◆業種・製品 金属の表面処理、テクノフォス
- ◆創業 1964 (昭和 39) 年 3 月
- ◆資本金 4,950 万円
- ◆従業員数 51 名



この連載は、人それぞれが「大切にしている言葉」を、経営者のみならずさまざまな立場の方から、エピソードを交えてご紹介いただくものです。